

## 実践② 鹿児島市立東桜島小学校

### 1 はじめに

本校は8クラス、児童数58人の小規模校である。鹿児島のシンボル桜島の南側に位置し、校庭からは活発な火山活動を続ける桜島を間近に見上げることができる。校庭には大正3年の大爆発を記した「桜島爆発記念碑」が建立されており、大正大噴火記念碑碑文の暗唱や、特産物である桜島大根の栽培と競り市への出荷、眼下の錦江湾での望岳遠泳、全校児童での無人島新島遠足、桜島1周遠行、火の島太鼓など地域性を活かした特色ある教育活動を行っている。

読書活動は、学校経営の重点として位置付け、年間読書目標冊数を一人120冊（低学年150冊）とし、公共図書館や家庭と連携を図りながら推進している。

### 2 活動の実際

#### (1) 学校図書館運営委員会

本校では年3回「学校図書館運営委員会」を開催している。今年度は「子どもの読む・調べる習慣の確立を目指して」をテーマに掲げ、学校図書館活動をより発展させるための改善等を行っている。また、授業での図書館活用を教育課程に位置付けて、全教科での「学校図書館週1利活用」に取り組んでいる。



【6年生国語科】

#### (2) 調べ学習ガイド

「学習・情報センター」の機能でもある、「調べ学習」を重点ポイントとし、児童の「調べる力の育成」に力を入れている。

児童の「調べたい」という意欲を育てるために、毎年児童アンケートを実施し、児童が調べることに對して何が不安かを明確にしている。本年度はアンケートの実態から、図書館で調べる手立てを示す「調べ学習ガイド」の作成に取り組んだ。調べるための「テーマ決め」や「ツール」、「まとめ方」をガイドにした。これにより児童の「調べる」に對しての不安を取り除く手立てとなっている。



【調べ学習ガイド】

図書館には授業で活用しやすいようにホワイトボードを整備している。また、調べ学習スペースには児童がすぐに調べ学習に取り掛かれるよう、百科事典や国語辞典、調べたことをメモするための付箋や「情報カード」も一緒に常設展示している。さらに、書籍と並行して調べ学習が行えるように、タブレットも整備している。

#### (3) マルチメディアデージー図書活用

本校は、特別支援学級2クラスを設置している。文字を文章として読むことが困難な児童もいることから、電子書籍の「マルチメディアデージー図書」を図書館に設置した。図書館専用のタブレットを活用することで、一人で物語を読むことが苦手な児童も、文章を読み上げる機能や、読んでいる文章がわかりやすく光って表示されたり、読み上げる速度も調節できたりするため集中して読むことができている。



#### (4) 防災コーナーの設置

昨年度の桜島噴火警報レベル引き上げに伴い、学校全体としての防災意識を高めるきっかけとなった。そこで図書館では「防災コーナー」を設け、避難マップや普段からの備えを中心とした書籍を揃え常設展示を行っている。避難訓練時だけではなく、児童自身が日常的に防災に関する情報を身近に入手する環境作りに努めている。



新聞コーナーでは、子ども新聞の他に、桜島に関する記事をファイルしたり、観光パンフレットを常設展示したりしている。新聞により親しむため月に1回体育館にて、全校児童で新聞閲覧を行っている。またパンフレット等は、声かけを行い児童が自ら各地で収集してくるようさせることで、日頃から学習に対する意欲付けを行っている。

#### (5) 読書イベント（読書祭り）

学校全体で準備に取り組み、読書の秋を本に親しむ「読書祭り」を行った。地域・保護者ボランティアによるブラックシアターで幻想的な雰囲気オープニングとなり、市立科学館による実験教室では児童が科学読み物への読書意欲に繋がるものとなった。また4年生以上は、自分たちで大型絵本の読み聞かせや読書クイズ、人形劇などを行った。児童自身で楽しむ側と楽しませる側を体験することで、より読書体験を身近に感じるものとなった。



【 読書祭りポスター 】

その他に絵本作家の招聘にも力を入れている。保護者・地域をはじめ、児童は「絵本作家」という職業を身近に感じることができた。また近くの保育園年長児も招待して、幼稚園・保育園児が入学してからもスムーズに読書活動に取り組めるよう連携も行っている。



【 サトシン氏講演会 】

【 招聘した絵本作家 】

平成 24 年度	平成 25 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
よしながこうたく	宮西達也	サトシン	鈴木のりたけ

#### (6) 桜島地区司書自主研修

桜島地区の学校司書と公民館司書による自主研修を毎月行っている。それぞれ学んだ研修報告を持ち寄ったり、選書について話し合ったりしている。また講師を招いての研修や、年に2・3回他の図書館へ見学に行き、学びを深める活動を行っている。これらの研修により、司書自身のスキル向上と、他校や公共図書館との連携も行うことができる。

### 3 おわりに

学校・家庭・地域が一体となって多様な読書活動に取り組んできた結果、平均読書冊数も増え、本好きな子どもが増えてきた。また、学校図書館週1利活用で、「読書センター」だけでなく、「学習・情報センター」としての機能も充実してきている。今後は情報活用能力をはじめとする学力向上につながる読書活動の充実に努めていく必要がある。